

おかげさまで
日本工業大学工業技術博物館は
開館10周年を迎えました

平成10年(1998年)11月1日発行

ベカルト社首脳が儀礼訪問

駐日ベルギー大使も共同研究を視察



駐日ベルギー大使ならびにベカルト社の会長ら一行に歓迎の挨拶を述べる大川理事長。神馬学長(理事長の左)はじめ各部長が列席。

昨年スタートした、ベルギーの国際的鋼線メーカーベカルト社との共同研究は順調に推移しているが、この十月二日、駐日ベルギー

長の特命全権大使ヒュスター・デイルクス氏およびベカルト社社長兼ベカルト・ハルミッシュ氏、アジア支社長の後藤進氏が、儀礼訪問された。

一行は、大川理事長、神馬学長および各部長らと懇談の後、共同研究機構として学内に設置のベギニット社を、技術開発をものとした柳澤章教授(機械工学科)の案内で視察。次いで機械工作センター、工業技術博物館を参観されたが、本学の充実した研究教育環境に、つよい興味を示された。



日本工業大学が誇る体験学習装置「工業技術博物館」が、開館十周年をむかえた。そして去る九月一日、これを記念、《歴史的価値のある工作機械の顕彰》制度が

「歴史的価値のある工作機械の顕彰」制度が発足

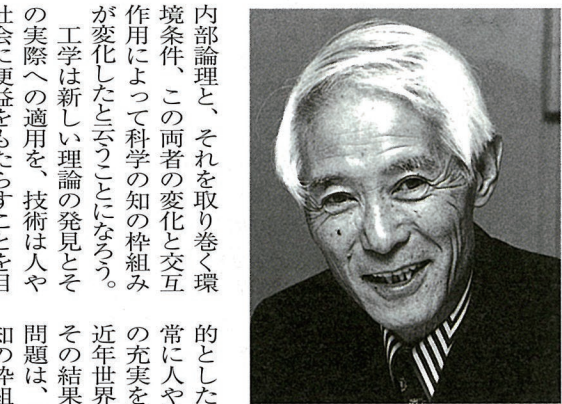
正式に発足をみた。意図は、わが国の産業界の発展に貢献し、一時代を画した工作機械の名機を顕彰。併せて工業技術博物館に展示・保存することによって教育普及活動につとめ、ひいてはモノづくりの

機工業会総務部長/アトリエ・じゅん代表の岡安英雄氏が就任。審査委員として、朝倉行一氏(元東芝機械取締役技師長、ほか八名。推薦委員には、委員長吉田嘉太郎氏(千葉大学工学部教授ほか十名が委嘱された。

大川陽康、鈴木昭両先生の「文部大臣賞」受賞を祝う会が盛大に催される

九月二十五日、市ヶ谷の私学会館で「大川陽康、鈴木昭両先生の『文部大臣賞』受賞を祝う会」が、賑々しく開催された。

出席者は、大学・付属工高の教職員をはじめ、工業技術博物館後援会、両校後援会、同窓会メンバーなど二百五十名。加えてご多忙中にもかかわらず、吉川弘之先生(日本学術会議会長、内田盛也(日本工学会副会



新日本製鐵(株)顧問 富浦 梓

「まずモノに学べ」を標榜する日工大の出番

最近世界の好奇の目を集めたクリントン大統領は変化をスロガンにしてホワイトハウスの主となりながら、彼の言動や証言があまりにも変化するため国民に大いなる不信の念を植え付けたのはあまりにも皮肉な話である。

さて、現代の特徴を要約してみると、やはりクリントンが云った変化と早さと云う言葉が浮かび上がってくる。それでは一体学術の世界で何が変化したのであろうか。学術会議は第16期においてこの問題を真剣に討議した。この内容をこれまた大胆に要約してみると、学問分野の

(とみうら・あずさ)1932生まれ、56年九州大学工学部冶金学科卒業、八幡製鐵(株)入社。87年新日本製鐵(株)取締役新素材事業本部長、91年常務取締役技術開発本部副本部長、95年常任顧問、97年顧問就任。第16期、17期学術会議第5部会委員、第17期第5部幹事。スウェーデン王立理工学アカデミー会員。工学博士。

この新しい知の生産についてマikelギボンズは従来の知の生産は学問分野の内部論理に基づく研究によって決定されたが、これからの新しい知の生産は社会を巻き込みながらいろいろな学問分野を横断的に集結した研究によって決定されなければならないと指摘している。

ところで、技術はそれが成立した時代と地域の自然科学的、人文・社会科学の影響を強く受ける。例えばある地域で既に定着している技術を移転したとすると、移転した翌日からその技術がうまく作動するかと云えばそうはいまうかない。必ずなにかが起る。その原因を探って研究が行われる。しかしまた予測もしなかつた現象が起る。この果てしない繰り返しの中で技術は次第に定着し、普遍性を高めてくる。

つまり技術とは如何に理論的に解明したと思っても、本質的に環境条件の変化に対して脆弱であり、それを補ったのがもの



歓談される、左より大川陽康、吉川弘之(学術会議会長・前東京大学総長)、工藤英明(横浜国立大学名誉教授)、鈴木昭の諸先生方。

平成11年度一般入試

90年の「モノづくり」の学びの伝統を21世紀に生かす!

学部	募集人員	願書受付	試験日	合格発表
工学部	機械工学科 (200名)	1月8日	2月12日	2月19日
	情報工学科 (140名)			
	電気電子工学科 (200名)	2月6日	2月13日	
	建築学科 (200名)			
	システム工学科 (160名)		2月14日	

●お問い合わせは●日本工業大学 教務課入試係
☎345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園4-1 ☎0480-33-7507(直)

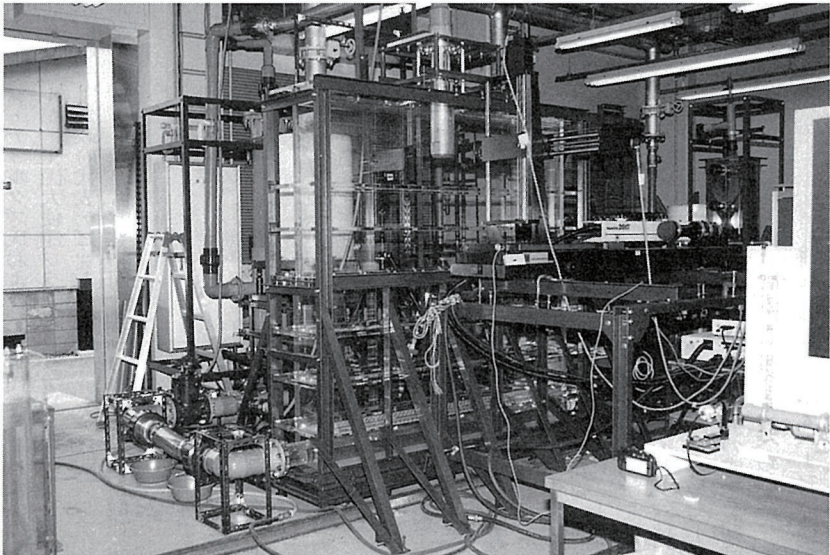
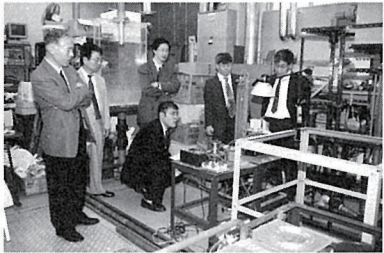


NOW!!

横谷・高木研究室（機械工学科）

新しい鉄鋼プロセスの開発を目指して 日本鉄鋼協会の重点研究に採択される

鉄鋼を製造するプロセスでの今日の課題はさらに品質の優れた材料を作ることと、鉄を作るプロセスで鉄1トン当たり、約400kg発生するスラグと呼



写真上＝研究状況を参観する住友金属工業、九州耐火煉瓦、大阪大学先端科学技術研究センターの方々。下＝実験室の一角に設置された《水モデル実験スラグ鑄型》。

ばれる酸化物を減量することである。スラグは鉱滓または鋼滓ともよばれ、鉄を作るときにでる滓（かす）で一部はセメント原料や道路用路盤材などにつかわれているが、近年用途が減少して廃棄するのに困っている。これらの問題について横谷・高木研究室は6年以前より取り組んできた。

その成果の一部は国家プロジェクト「電磁力を利用した鋼の鑄造プロセス」で取り上げられた。最近では住友金属工業（株）、九州耐火煉瓦（株）およ

び大阪大学先端科学技術共同研究センターとの密接な協力のもとで実用化を目指して、実際に操業されている設備を用いてテストが繰り返され、実用化に向けて着々と展開している。鉄を作るプロセスでは溶けた鋼を固めて鋼塊とするため連続鑄造という方法（図1）が使われる。溶鋼はそれを入れた容器（タンディッシュと言う）から浸漬（しんせき）ノズルと呼ばれる注入管を通じて鑄型に注がれ凝固させられる。従来の方法では注入管を出て鑄型内に入った溶鋼の最大流速は最大5m/sにも達し、鑄型内を激しく攪拌する。この激しい攪拌は溶鋼表面を覆って溶けた鋼を酸化より防ぎ、鑄型との潤滑にも使われる溶けた酸化物（連鑄パウダーと言う）を溶鋼中に巻き込む原因となるため、出来上がった鋼の品質を著しく低下させる。この問題を防ぐには鑄型の外側に強力な電磁力を作用させて激しい溶鋼の流れにブレーキをかけているが、その効果には限界がある。当該研究グループではこの浸漬ノズルの内側にねじりテープを入れて内部の溶鋼に旋回運動を作り出すことによってこの問題を解決出来ることを発見し、提案した。水によるモデル実験やコンピューターによる流体シミュレーションを繰り返してこのねじり方式が鑄型内の流れの制御に非常に効果的であることを明らかにした。日本をはじめ、米、独の学会で発表し大きな反響を呼んでいる。また、この提案は日本鉄鋼協会の重点研究としても取り上げられている。10月には鉄鋼メーカーなどの協力を得て実機と同じ大きさの水モデル用の実験設備が完成し、10月12日には関係者を集めて披露された。なお、

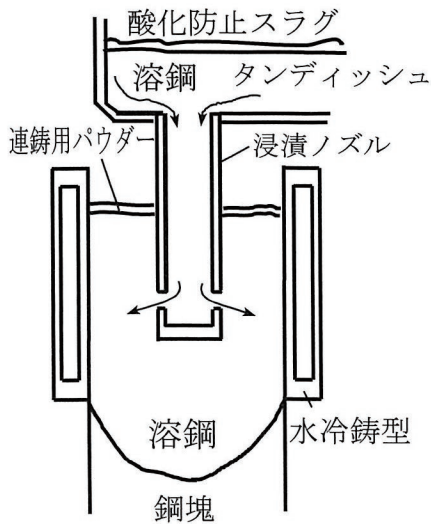


図1——浸漬ノズル鑄型

この規模の設備は我が国の大学では本学が初めてで、鉄鋼メーカーでも新日鉄の名古屋製鉄所に設置されているだけである。（左の写真参照）

この研究の過程で、液体中に旋回運動を与えた場合の流体力学的な特徴が明らかになってきた。そこで旋回運動を使った新しい鉄鋼製錬プロセスが本グループで考案され、大きな話題となっている。

このように流体研究グループは大学で芽生えたシーズ（種）をもとにして世界に通用する新しい技術の実用化に向けて産学協力の研究を進めている。この方向は、今後の大学―産業界のジョイントの例となるものと期待している。

平成9年度決算・平成10年度予算 教育の高度化・個性化めざして 教育研究費充実の予算編成

第三期決算・第三期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事會・評議員會で承認決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位

のご理解とご協力をお願いする次第です。今年六月に大学審議會より発表された「二十一世紀の大学像と今後の改革方策について（中間まとめ）」の中で、二十一世紀の社会状況は、一層変化が激しく複雑化した不透明な時代、地球規模での競争・共生が求められる時代を迎える中で、少子高齢化が進行し、生産年齢人口が大幅に減少し、学術研究についても進歩の速度が加速されると同時に学際化・総合化の必要性が生ずる等、高等教育を取り巻く状況が大きく転換していくであろうと報告されています。

科学技術創造立国を目指す日本の二十一世紀において、本学は、社会の各分野で活躍し我が国発展の原動力となる優れた人材の養成、未来を拓く新しい知の創造、知的資源を活用した国際貢献等の役割を果たしていく

ことが不可欠となります。そのためには、今後、教育の高度化、個性化、特色化を図り、教育研究、学生生活環境の整備改善、財政の見直しに努め、魅力ある大学作りに鋭意努力していかねばなりません。

ご父母の皆様をはじめ、卒業生、教職員、学校関係者の皆様のますますのお力添えをいただき、さらに発展させて参りたいと考えております。

●平成九年度決算について
教育研究活動の充実と活性化をめざした教育研究経費を確保し、円滑なる学生教育と研究活動を支えました。また新たな施設としてゲストハウスを建設し、さらに施設の改善や設備の充実に配慮し、継続事業となつていたスチューデントセンターの工事、旧機械工

●平成九年度予算について
特別研究費、大学院予算については、補助対象となるような研究に対して重点配分をする等、教育研究費のより一層の充実が図られました。主たる施設・設備は、ハイテクリサーチセンターの建設、教室改修工事、防災・防犯工事、建物耐震診断等の執行が予定されています。

●財務諸表について
平成九年度の全ての収支を表示する資金収支計算書、期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表、平成十年度資金収支予算書は別表の通りです。

工事等の予算が執行され、教育研究用機器備品として、流れ場および粒子挙動観測システム、インパルス電圧、電流高精度測定・校正装置、超微細表面評価観察システム等が購入され、インターネット対応情報教育システムが導入されました。

●平成十年度予算について
申請の背景には、最近注目を集めている高輝度青色発光ダイオード（LED）の実現がある。研究開発の題目は「高輝度発光ダイオードを用いた植物栽培用低消費電力人工光源の開発」で、従来の植物（野菜）工場で用いられている高圧ナトリウムランプなどの光源を、高輝度のLEDに置き換えることにより、低消費電力で高効率の植物栽培用人工光源を開発し、も

って地球温暖化の要因である二酸化炭素排出の抑制に貢献することを目的としている。

システム工学科四年生・大氣信之君が埼玉県プレ・インキュベータ研究生に認定

埼玉県では、独創的なアイデアを持つ学生等を技術面、資金面で支援し、起業化を促進することにより、県内産業の新たな分野を開拓する。学生等の新規事業への挑戦意欲を醸成するために、プレ・インキュベータ設置事業を行っている。この補助事業に、鈴木敏正研究室の卒研究生大氣信之君の申請が採用になった。その



大氣信之君

平成9年度資金収支計算書

平成9年4月1日から平成10年3月31日まで (単位:円)

収 入 の 部	金 額	支出の部	金 額
学生納付金収入		人件費支出	2,842,011,192
授業料収入	4,294,555,650	教育研究費支出	1,409,530,428
入学金収入	278,524,000	管理経費支出	270,768,847
実験研究費収入	494,228,000	借入金等利息支出	239,886,723
施設設備拡充費収入	1,132,371,500	借入金等返済支出	290,640,000
教材費収入	760,000	施設関係支出	836,494,062
		設備関係支出	636,294,275
手数料収入	95,961,150	その他の支出	1,447,331,516
寄付金収入	356,340,206	未払金	772,201,310
補助金収入	868,494,300	退職給与引当特定資産繰入	6,058,106
資産運用収入	40,051,727	施設引当特定資産繰入	215,307,415
資産売却収入	480,000	育英基金特定資産繰入	4,080,649
事業収入	30,076,308	設備引当特定資産繰入	159,718,059
雑収入	80,547,569	第3号基本金引当資産繰入	35,000,000
前受金収入	2,686,930,950	その他	254,965,977
その他の収入	305,793,893		
資金収入調整勘定		資金支出調整勘定	△80,608,249
前期末前受金控除	△2,598,131,350		
期末未収入金控除	△188,134,650		
前年度繰越資金	4,806,201,432	次期繰越資金	4,792,701,891
収 入 の 部 合 計	12,685,050,685	支出の部合計	12,685,050,685

平成10年度資金収支予算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで (単位:円)

収 入 の 部	金 額	支出の部	金 額
学生納付金収入		人件費支出	3,044,398,000
授業料収入	4,407,599,000	教育研究費支出	1,514,236,934
入学金収入	275,858,000	管理経費支出	328,298,600
実験研究費収入	509,091,000	借入金等利息支出	226,955,000
施設設備拡充費収入	1,155,773,000	借入金等返済支出	407,280,000
教材費収入	720,000	施設関係支出	877,890,000
手数料収入	93,800,000	設備関係支出	1,048,486,865
寄付金収入	170,330,000	その他の支出	1,400,770,994
補助金収入	1,101,294,000	未払金	79,976,614
資産運用収入	34,500,000	退職給与引当特定資産繰入	25,100,000
事業収入	33,089,000	施設引当特定資産繰入	673,537,768
雑収入	97,499,000	育英基金特定資産繰入	6,000,000
前受金収入	2,686,618,550	設備引当特定資産繰入	166,600,000
その他の収入	607,746,022	第3号基本金引当資産繰入	35,000,000
資金収入調整勘定		その他	414,556,612
前期末前受金控除	△2,686,930,950	予備費	80,000,000
前年度繰越資金	4,792,701,891	資金支出調整勘定	△214,552
収 入 の 部 合 計	13,279,688,513	次期繰越資金	4,351,586,672
		支出の部合計	13,279,688,513

貸 借 対 照 表

平成10年3月31日現在 (単位:円)

資 産 の 部	金 額	負債・基本金及び消費収支差額の部	金 額
資産の部		負債の部	
固定資産	22,894,087,586	固定負債	6,492,516,549
土地	1,949,719,555	長期借入金	5,150,820,000
建物	13,833,007,676	退職給与引当金	1,341,696,549
構築物	1,489,450,018	流動負債	3,295,410,236
教育研究用機器備品	4,403,624,254	短期借入金	407,280,000
その他の機器備品	95,139,076	未払金	79,976,614
図書	1,116,176,456	仮払金	0
車 輛	6,970,551	前受金	2,686,930,950
建設仮勘定	0	前受金	121,222,672
その他の固定資産	2,764,789,117	基本金の部	28,251,808,404
電話加入権	2,601,516	第1号基本金	27,331,700,944
施設利用権	29,139,948	第3号基本金	492,168,796
有価証券	450,451	第4号基本金	427,938,664
差入保証金	667,700		
退職給与引当特定資産	651,576,322	消費収支差額の部	△7,370,238,021
施設引当特定資産	1,181,058,263		
設備引当特定資産	375,258,888		
育英基金引当特定資産	31,867,233		
第3号基本金引当資産	492,168,796		
流動資産	30,669,497,168		
現金	4,792,701,891		
未収入金	188,134,650		
前払金	214,552		
仮払金	29,569,372		
資 産 の 部 合 計	30,669,497,168	負債・基本金及び消費収支差額の部合計	30,669,497,168

活性化に向かう産学交流 学術振興の新たな展開

ベカルト社(ベルギー)との共同研究

来学のベカルト社首脳一行(二ページ参照は、多忙な時間を割いて、精力的にキャンパスの諸施設を参観した。中でも、機械工学科の柳澤章教授が開発した金属繊維ファイバー製造技術の実用化に向けて設立した共同研究機構「ベギニット」では、市場創造の期待もあって熱いまなざしを向け、研究スタッフならびに製造部門担当者に、次々に質問の矢を放っていた。

また一行は、専門的興味から「機械工作センター」ならびに「工業技術博物館」を見学されたが、前者では、その充実した実験研究設備に感嘆。また後者では、世界のトップレベルにあるモノづくりを支えて来た、数々の工作機械群に、改めて技術の分厚さを感じ取られたようだった。

この国際共同研究を端緒に、より一層、産学交流にはずみをつけたものだ。



「ベギニット」の研究施設を視察するデネイヤー会長



ベカルト社のデネイヤー会長



一行参列の下、キャンパス中庭の一角に記念植樹する大川理事長。



理事長室・学長室の入り口脇に展示された、共同研究の成果として市場に出荷されはじめた金属繊維製品ならびに活動内容のパネル。



柳澤教授から説明を受ける駐日ベルギー国特命全権大使。



儀礼訪問の一行と応接に当たった理事長・学長・各部長ら。

産学リエゾンセンターの活動促進

今春、中堅・中小企業のモノづくり技術や起業シーズをトータルにサポートする目的で《産学リエゾンセンター》(専任・増田伸爾教授)が開設されたが、9月29日、本格的活動の第一弾として「埼玉県創造的異業種交流会(埼創交)」が開催された。出席者は、各種企業ならびに県や関係諸団体など20あまり。プレゼンターとして、柳澤章、酒井茂紀、宮沢肇(機械工学科)、菅原和士(電気電子工学科)、市橋重勝、白石一郎(建築学科)、三宅正二郎(システム工学科)の諸先生が、それぞれOHPを用いて研究内容を披露。終了後、個別にポスターセッション形式の任意の交流が行われた。



研究内容のプレゼンテーションを受ける出席者たち。



研究の取り組みを説明する機械工学科の酒井教授(右)。

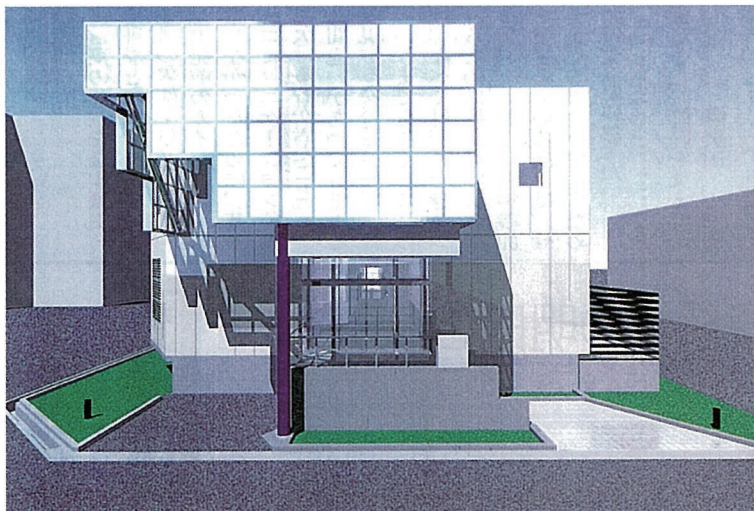


機械工作センターを参観、その充実ぶりに目を見張る。

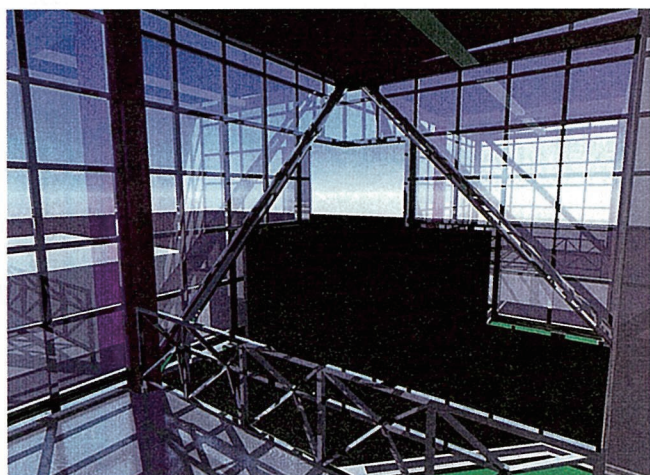
来春、竣工予定の ハイテク・リサーチ・センター概要



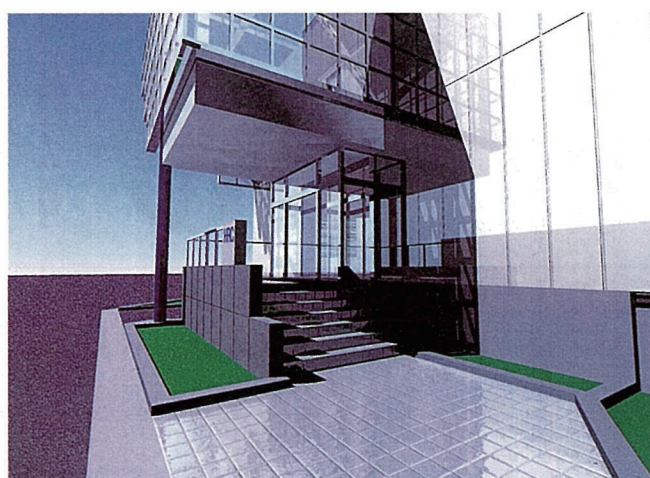
超高压放電研究センターの真向かい、西南方向からみた全体像



西側に位置取られたファサード



2階ファサード上部の内部構造



北西側からみたファサード



9月1日に地鎮祭が行われる



村口昌之教授

前号でお伝えした「文部省ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に関する工事が、着々と進んでいる。ご覧のように、完成イメージは、まことに先端研究

設計思想は学内既存の新建 築群のシステムライン上に

に相応しく、来春三月の竣工が待ち遠しい。
村口昌之教授（建築学科）によれば、設計コンセプトは、下記の通り。

- ① 建物の全体イメージとして、本学の二十一世紀に向けた発展、固定観念打破エネルギーの爆発を表現。
- ② 外壁は先端研究に相応しいシルバー色を採用。
- ③ 日本の伝統建築の屏風と障子のイメージで、 $250 \times 750 \text{mm}$ のスペースグリッドを展開する。
- ④ 「継続は力なり」の伝で、シンプルな空間リズムは本学の新建築群と同じシステムライン上に立つ。

参考までに言い添えておけば、「本学の新建築」とは、情報・建築・機械学科など一連の実験研究棟のこと。そしてそれは、なべて村口教授の手に成る建築空間である。

生（東工大・東京芸大名譽教授、チューリッヒ工大大学のアルフレッド・ロート教授、ドイツの建築家シュナイダー・エスレーベン教授などに師事して学んだ経験を、これらの建物を教科書として学生諸君に伝えていきたい」と語っている。



現在の工事状況

設計・監理:	村口 昌之 (建築学科教授)
施 工:	株式会社大林組 大成温調株式会社 三英電業株式会社
工 期:	1998年9月1日～1999年2月15日
建 物 規 模:	延床面積 1,086.39㎡
	軒 高 9.020m
	最 高 高 9.700m
	階 数 地上2階
構 造 概 要:	地業・基礎 ソイルセメント工法 (地盤改良)
	軀 体 鉄骨造
仕 上 概 要:	外部 屋根 折版屋根 断熱工法、シーム溶接工法
	壁 押出成形セメント板 (アスロック) メタリック
	焼付け型フッ素樹脂塗装
	内部 床 長尺塩ビシート、グラニットタイル
	壁 石膏ボード下地塗装仕上げ、石膏ボード下地
	アルミスパンドメタル張
	天井 ジブトーン、岩綿吸音板、スチールメッシュパネル
設 備 概 要:	電 気 設 備 受変電、幹線動力、電灯コンセント、電話配管、防災設備、通報表示
	給排水衛生設備 給水、排水、給湯 (局所)、衛生器具、消
	火設備、ガス設備 空調・換気設備 空調、ダクト、配管
	設備、換気設備

夏季休暇利用の
海外研修二題

異文化体験こそ師!!

LETTER FROM CANADA

It was my pleasure to host Kazuhiro Okuda and Motoyuki Ogawa in my home. Hiro is a very pleasant and outgoing young man. He tried to improve his English all the time and is never shy or afraid to ask questions. He's a fun young man to have.

Moto is a very thoughtful & caring young man. Always likes to help me in the house. He is a great help & he'll make a very good husband whoever that lucky girl in Japan maybe!!

I am sad that you are leaving Canada. You both have become like my own sons. I wish you both the very best in your future and don't forget write or e-mail to me.

Bye. Sayonara!

奥田和博君と小川基幸君を我が家でお世話でき、とても楽しかったです。

ヒロはとても楽しく外向的な青年でした。いつも英語の力をつけようとし、また、恥ずかしがらずに、遠慮なく質問しました。彼は一緒にいると楽しい青年でした。

モトはとても思慮深く思いやりのある青年でした。いつも家では私を手伝い、とても助かりました。日本でだれがその幸せな女性になるにせよ、彼はとても良いお婿さんになると思います。

私は二人がカナダを去るので悲しく思っています。二人とも私の実の息子のようでした。二人の将来が素晴らしいものであることを願っています。そして、私にe-mailか手紙を出すのを忘れないように。

では、さようなら!

ポリース・リー

I am so lucky to have come to Canada ; because I had the chance of meeting so many nice people. The school where I studied ; the English Language Institute is under the University of British Columbia (UBC for short). This university is very big. Our teachers and other school staff are very helpful and understanding. I have learned a lot in my 3 short weeks stay. The host families made us feel at home. They took us like their own family.

Vancouver is a very clean and beautiful city. There are so many places to go and see ; like the downtown area where shopping is good. The Science World where the Imax theater is. The screen is one of the largest in the world. We went to Steveston, where the fishing boats docks. Around the dock are souvenir shops and restaurants. We enjoyed a sumptuous feast of fish and chips, then we visited the Gulf of Georgia Cannery Museum. The group had fun Bike Riding in Stanley Park which is one of the worlds urban parks.

Everyone enjoyed the sunset Dinner cruise through the English Bay and False creek.

Some of us went to Banff; this tourist attraction is in Alberta, a province next to Vancouver B.C. Banff is a rocky mountain. The Canadians call it the Rockies. This place is so beautiful, like Lake Louise, where you could go boating in the summer and ice skating in the winter. The ice field is so nice and cold. We enjoyed rafting in the river.

There are still so many beautiful scenery to see but 3 weeks is not enough to see them all. If I have the chance to come back, I will not hesitate to come.

私はカナダに来て運が良かったと思います。それというのも数多くのとても良い人に会う機会があったからです。私が勉強したのはブリティッシュ・コロンビア大の傘下にある英語研究所でした。この大学はとても大きい大学です。先生や他のスタッフの皆さんにはいろいろと助けていただき、又、教えていただきました。三週間の短い滞在でしたが、とても多くのことを学びました。ホーム・ステイ先ではとても良くしていただき、まるで家族の一員のようなでした。

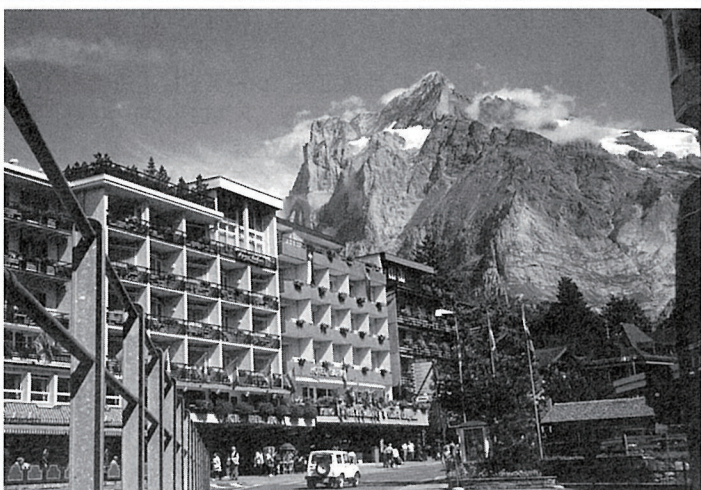
バンクーバーはとても大きく清潔な町です。買い物に便利なダウンタウンのように見物しに行くべき多くの場所があります。サイエンス・ワールドには、イマックスがありますが、これは世界最大の映画です。私たちはスティブストンにもゆきました。そこには船のドックがあります。その周りには、お土産屋さんやレストランがあり、私たちはそこで、フィッシュ・アンド・チップスを大いに楽しみました。そして、ジョージア湾キャナリ美術館にも行きました。又、世界最大の公園のスタンレーパークでサイクリングをしました。また、イングリッシュ・ベイとフォールスクリークを周るディナークルーズも楽しみました。

私たちのうちのある者はバンフにも行きました。これはバンクーバーのあるブリティッシュ・コロンビア州の隣のアルバータ州にあります。バンフは岩だらけの山です。そこで、カナダ人はそこをザ・ロッキーズと呼びます。ここはすばらしく美しいところで、レイク・ルーズでは夏にボート遊びをして冬にはアイス・スケートをしします。氷原はなんともきれいで寒い所です。私たちは川でラフティングも楽しみました。

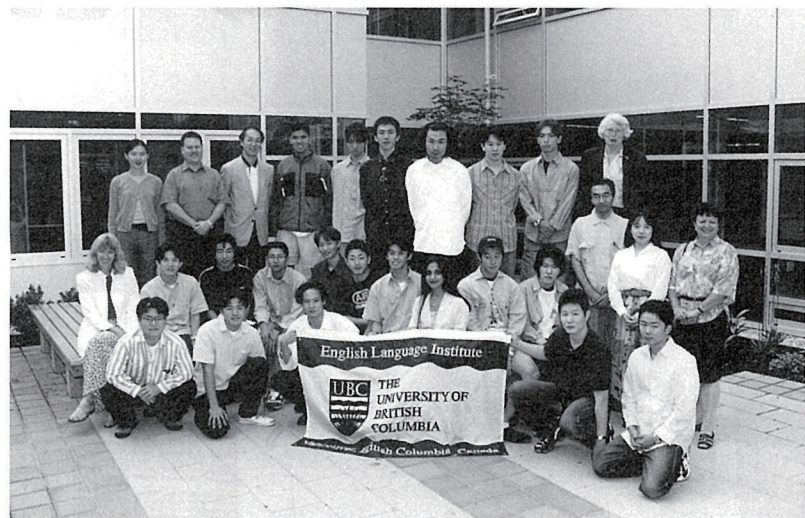
まだ沢山の見るべき所がありますが、とても三週間ではまわりきれず、もし、機会があれば喜んでカナダに戻りたいと思っています。

熊野貴文

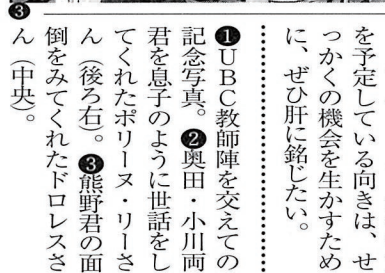
M・Aドロレス



グリンデルヴァルト駅(スイス)の美しい光景



森山幹郎講師



第十五回 カナダ特別英語研修

U・B・C (ブリティッシュ・コロンビア大学) での第十五回「カナダ特別英語研修」が、参加者十八名を得て、滞りなく終了した。以下は、引率者・森山幹郎講師 (共通系/専門II国際関係論) の、今年の研修内容の特色および学習態度に関する評価である。

●研修内容
従前と比べて変わったのは、移民用に特設された最新のLL (Language Laboratory) 装置を用いた授業。また三日に一度の割合で、課題に基づくダウンタウン探訪など、実践的に会

話能力を高めるカリキュラムの導入。
●問題点
①言葉の背景をなす歴史・地理などに関する基本的な知識の欠如が目立つ。
②出発前のガイダンスに出席しなかったために、基本的コミュニケーション能力に欠ける者が居たこと。
③間違いがあっても堂々と表現する姿勢に乏しい。
④いまでもなく、これらは、なべて外国語を身につけるために越えなければならぬハードル。来年参加を予定している向きは、せっかくの機会を生かすために、ぜひ肝に銘じたい。

通貨統合の明日を予見!!



ロンドン・テムズ河畔の研修生一行

八月二十六日成田を出発 ロンドン経由で翌朝アテネに到着 カラッとした暑さの中、坂道を登ると二千五百年前と同じ姿のバルトン神殿が目前に現れ、昔日の夢と力強さを見る思いがした。周囲の人々の言葉も様々で、ギリシヤ彫刻のような顔と見事な体形の人々がそこかしこにいた 二十九日

ローマのコロッセオを見た。そばにコンスタンチヌス皇帝の建てた凱旋門があり、さわやかな風が吹いて体中を通り抜けるようで、それだけで十分ヨーロッパの雰囲気が理解できたような気分になった。学生は、古代ローマ戦士の装束を着た現地の人と写真に収まっていた。九月一日ミュンヘンの美術館で、現地ガイドのドイツ語なまりの英語を聞き、こいう英語もあるのかと妙に納得した。夜、ビヤホールで民族踊りを学生と楽しんだ。学生の一人が舞台に呼ばれて、大いに盛り上がった。翌日、新白鳥城を見てチュリッヒへ向かう。九月三日雨の中、登山電車でユングフラウヨッホへ。



生き方の差異を再考する重要性

寺島幸雄 (機械工学科講師)

ヨーロッパ研修

今回のヨーロッパ研修は、添乗員一名の九名である。七カ国を十八日間で廻る旅。個人的な関心は、異文化の中で、学生六名と引率二名、西洋を見て、日本の事実をより知ることにある。

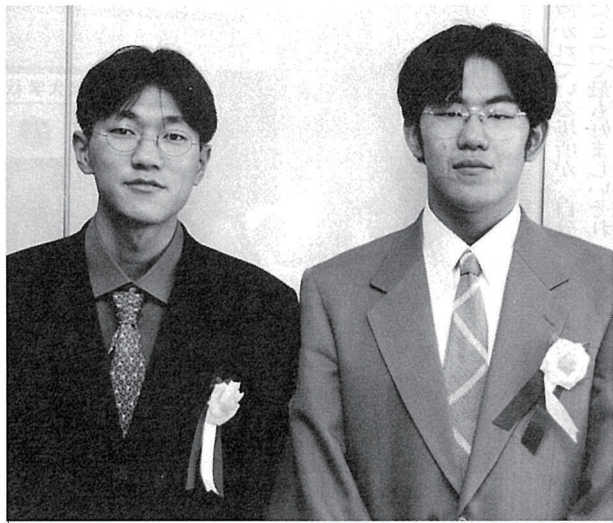
帰る頃から晴れて、アルプスの景色を堪能できた。その日の夜行列車でバルセロナへ移動。ここは、人口密度が高いので街中の雰囲気は少し日本に似ていた。九月五日パリに到着。凱旋門のリフトが故障中で階段で上がる。広い歩道のある放射状の道路と高さの統一された街並が見えた。九月八日ベルサイユ宮殿を見学。王の権威を見せるための建物と広い庭。夕方ロンドン到着。バックingham宮殿の衛兵交代式で、行進する様子は伝統を守る国という印象を強く受けた。多くの国を巡ったことで国ごとに異なる様子が理解できたように思う。「百聞は一見にしかず」である。EU圏の通貨統合が来年一月に実現する今日を垣間見たような気がした。何事もシンプルで直接的な西洋と、雑然とし間接的な日本人の生き方を、国際化の中で改めて考えることが重要であると思えた。終わりに、このような機会が与えられたことを関係各位に深く感謝いたします。

秋期入学第一期生、情報工学科三年の鈴木一寛君と建築学科三年の中川壮君は、本学付属の東京工業高等学校の出身である。高校卒業後はカナダのレスブリッジ・コミュニティ・カレッジ（LCC）へ留学し、みごと二年間でこちらの課程を全て修了して、この九月に本学へやってきた。

レスブリッジは冬季オリンピックが行われたカルガリーから二百キロほどの所にある都市である。都市とは言っても日本とは格段に広大なカナダのこと、非常におおらかなどかな土地柄のようだ。

LCCは二年課程の学校で、いわば日本の短大にあたる。しかし地元の産業に則した知識・資格を教授するところなので、日本の職業学校のような性格をも合わせて持っている。そのため、地元の学生にはハイスクーを卒業し、一度就職をし

ることなく、アメリカの大変ハードだった。平日には英語、数学に加え、大学での勉強方法を教える「カレッジ・ササセ」などの授業がびっしりと詰まっております。家での課題もまた多い。



中川 壮君 (建築学科3年) 鈴木一寛君 (情報工学科3年)

■カナダLCC留学を終え 秋期入学した注目の第1期生

このプログラムがまた大に役に立った。平日には英語、数学に加え、大学での勉強方法を教える「カレッジ・ササセ」などの授業がびっしりと詰まっております。家での課題もまた多い。

入学二年目にはレスブリッジに移り地元の学生たちと立派な魁となつてくれることだろう。

入ったばかりでわからないことだらけである。大学側にとっても初めての秋期生で対応に慣れない点も多い。

これから卒業までの二年間には幾多の困難が予想される。だが、彼ら二人は、カナダ留学で身につけた活力でそれを乗り越え、これから二期三期と続いてゆく秋期入学生

の立派な魁となつてくれることだろう。

入ったばかりでわからないことだらけである。大学側にとっても初めての秋期生で対応に慣れない点も多い。

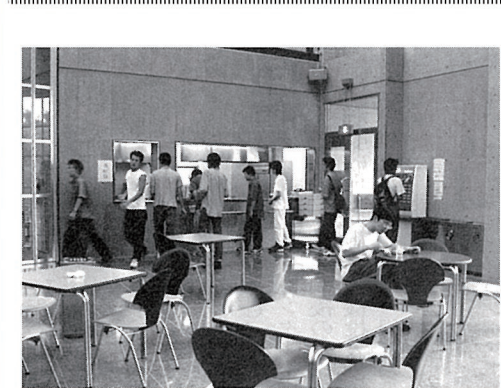
これから卒業までの二年間には幾多の困難が予想される。だが、彼ら二人は、カナダ留学で身につけた活力でそれを乗り越え、これから二期三期と続いてゆく秋期入学生

の立派な魁となつてくれることだろう。

入ったばかりでわからないことだらけである。大学側にとっても初めての秋期生で対応に慣れない点も多い。

これから卒業までの二年間には幾多の困難が予想される。だが、彼ら二人は、カナダ留学で身につけた活力でそれを乗り越え、これから二期三期と続いてゆく秋期入学生

の立派な魁となつてくれることだろう。



スチューデントセンターに カレー食コーナーが誕生!!

昨年のオープン以来、学園ライフの拠点として活用されているスチューデントセンターに、カレー食コーナーが誕生した。この厨房施設は後援会の寄付金に基づくもので、当コーナーの設置は、コンパ等の利便に供するとともに、昼食時の大食堂の混雑解消にも一役かっている。



電気工学専攻修士三年の押野卓君(坂本研)が、第五七回情報処理全国大会に

院生の押野卓くんの論文、 情報処理学会で奨励賞に!!

おける講演論文「インター ネット教材における学習者の 参照軌跡と学習効果の関 係(押野、ウッティチャイ、 井上、坂本)」により学会奨 励賞を受賞した。この賞は 気鋭の若手研究者に贈られ るもので、情報関連の研究 者・技術者なら一度は目指 すものだが、千件余りに対 して約八件と相当な狭き門 である。受賞対象となった 研究はKMITTからの留 学生ウッティチャイ君が、 坂本教授の指導のもとに立 ち上げたもので、初期の成 果は九七年度修士論文(電 気工学専攻)となっている。



昨今、建築学科の活動が 光っているが、またまた佐 藤真望さん三年が第十二回 「秋田の住宅コンクール」

建築学科の佐藤真望さんが 住宅コンクールで最優秀賞

(県、県建築士事務所協会主 催)一般の部で、最優秀賞 を受賞した。 応募動機は、共に大曲工 高出身で、現在、設計事務 所を営む父君の勧め。応募 作は、高齢化社会を見据え て、安全性・快適性・利便 性など、いわゆる「バリア フリー」的な要素を取り込 んだこと。また建物と庭の バランスの良さもあり、そ れらの点が高く評価されて の受賞だった。 その彼女は、「この受賞を 励みとし、より高齢化社会 に即した住宅を究め、卒業 後は秋田に帰って、父の仕 事を手伝いたい」との夢を ぶくませている。



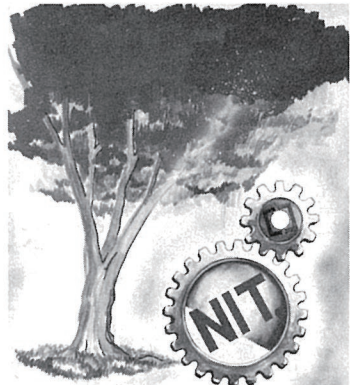
図書館長で共通系で工 業地理学を講じる竹内淳 彦教授の研究室に、スエーデンから留学生がやっ てきた。 君がその人だが、留学の

国際企業の多い 日本の産業基盤を究めたい!!

動機は、かつて竹内教授 が客員教授を務めたこと もある同大学の、やはり 工業地理学専門のアルプ スタム先生の強力な推薦 によるもの。同君の興味 は、「高い技術を持し、 かつ国際企業の多い日本 の産業分布やその基盤を 学び、修士論文をものす る」ことにある。 本学の印象は「クリー ンで設備が充実してい る」とのこと。人なつこ い彼は、「もう十数人の 友人をつくった」そうだ。

若杉祭に際して

大学祭実行委員長 奥富 彰一



第30回 若杉祭 「バージョンアップ」 11月1日(日)~11月3日(火)

日本工業大学大学祭実行委員会



今年も大学祭の季節が近づいて参りました。今年の若杉祭は三十回目という節目の年。委員一同、より一層の力を込めて日々準備に励んでいます。

今年のテーマは「バージョンアップ」。このテーマは、今年の若杉祭をいままでのよりもより楽しく、より素晴らしいものになろうと考える皆で話し合っ決めたテーマです。

さて、その記念すべき第三十回目の若杉祭の内容ですが、今年も野外ステージを中心に、例年以上に沢山のイベント・企画を用意しています。一日目はオープニングセレモニーから始まり「仮面ライダーショー」に「浴衣コンテスト」、そして、毎年好評の「大ピンゴ大会」。二日目は「パイル

イツ・MANZAI」が出演する「一度で二度おいしい秋の超講演会」や毎年恒例の「女装コンテスト」三日目の「秋のからっ風こんさあ」とはSURFACE(サーフェイス)が来ます。小さなお子様から一年配の方まで幅広く楽しんで頂ける内容です。楽しみに待っていて下さい。また、野外ステージにて行われる各企画は当日の飛び入り参加もごさいます。本学学生以外の方々にもどろんどろん参加していただければと思っ

ています。 さらに、各クラブ・サー

平成十一年度推薦入試出願状況報告

A方式、B方式ともに減少

工高生の入学可能な選択幅拡大も影響

平成十一年度推薦入試A方式とB方式第一回目の出願状況について報告する。 A方式は、いわゆる「指定校・指定学科制」である。各工高にあらじめ設けられた指定校に基づいて出願がなければ合格が約束される。例年、指定校数より実際の

出願者数が下回るのが常態だが、今年はそれが著しい。出願率(出願数/推薦校)は昨年の九四%に比べて、今年は八八%であった。

A方式合格者の入学後の成績が振るわなかった場合の指定校の見直しが高サイドに浸透した結果、出願者の選考に慎重になつてい

ることが窺える。指定校の不充足分はB方式で補うことになるので、B方式出願者にとつては歓迎できる状況と言えよう。

B方式は推薦校に漏れた出願者やA方式の指定校を持たない工高からの出願者の受験枠である。評価は学業成績よりも高校時の活動歴と、面接結果を重んじる。学風に相応しい優れた資

質を持つと共に、豊かな将来性を感じさせる学生をこの方式で見出すことに期待

している。工業高校に指定校を設ける大学が増え、合格が確

実なそれらを進学先として選ぶ高校生の安定的志向性。一般的に高校生の地元志向が強く、地方所在大学も地元高校優先策を強化して

いること、など。学生獲得のための他大学との競争は更に厳しさを増しているといえる。

この期間中、私たちも精一杯頑張るつもりです。年一度の、学校をあげての一大イベント若杉祭。どちら様もお友達をお誘い

のうへどうぞ奮ってご参加下さい。 皆さまが越えくだるのを大学祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

この期間中、私たちも精一杯頑張るつもりです。年一度の、学校をあげての一大イベント若杉祭。どちら様もお友達をお誘い

のうへどうぞ奮ってご参加下さい。 皆さまが越えくだるのを大学祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

この期間中、私たちも精一杯頑張るつもりです。年一度の、学校をあげての一大イベント若杉祭。どちら様もお友達をお誘い

のうへどうぞ奮ってご参加下さい。 皆さまが越えくだるのを大学祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

この期間中、私たちも精一杯頑張るつもりです。年一度の、学校をあげての一大イベント若杉祭。どちら様もお友達をお誘い

のうへどうぞ奮ってご参加下さい。 皆さまが越えくだるのを大学祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

この期間中、私たちも精一杯頑張るつもりです。年一度の、学校をあげての一大イベント若杉祭。どちら様もお友達をお誘い

のうへどうぞ奮ってご参加下さい。 皆さまが越えくだるのを大学祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

この期間中、私たちも精一杯頑張るつもりです。年一度の、学校をあげての一大イベント若杉祭。どちら様もお友達をお誘い

のうへどうぞ奮ってご参加下さい。 皆さまが越えくだるのを大学祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

初の秋期入学式举行!!

学部3年次編入2名、院生1名



情報工学実験研究棟の5F会議室で行われた入学式

秋期入学は四月入学が基本の我が国の学校制度のなかで、海外帰国子女や留学生の大学入学に利便を提供するものとして、また一般受験者に対する大学受験機会の増大を図るものとして中教審答申においてもその拡大が提唱されているものである。

本学でも今年度から採用され、初の秋期入学式が九月一日(水、情報工学科実験研究棟会議室において、大学関係者と付属中学校ならびに付属高校関係者の臨席のもとに挙行された。

入学者は学部の建築学科と情報工学科への3年次編入2名。大学院博士前期課程システム工学専攻に1名。学部編入の2名は付属工

環境促進で生ごみ処理機導入

後、本学に編入学したもので、長期の海外生活で得たスピリッツとバイタリティーで周囲の学生にインパクト

を与えることを期待している。秋の入学式が大学のなかの新しい風景として定着することを念じている。

文化調査・大溪老術調査報告

先日、宮代町の農政商工課の係長さんが見えられ、宮代産コシヒカリ「みやしろっ子」を販売するの協力して欲しい旨の依頼を受けた。宮代町の美しい自然環境を守るという願いが込められた無化学肥料・減農薬のお米で、五kg二四五〇円、十月二十五日から販売を開始する。この「みやしろっ子」は、町内の米作り一筋の農家が集まって生まれた「稲作研究会」が中心となり長年研究開発を進めてきたもので、町民から公募し「みやしろっ子」と名前が決定、大会は埼玉県で開催される。なかでもアーチェリー会場として、宮代町は県からめでたく選定を受け、開催地となることの内定した。数年先のことはあるが、学生諸君へボランティア活動のお願いもあると思う。成功裡に終わられるよう協力しようではないか。このための開催準備委員会の委員として、本学から二名、小林学生部長と鈴木総務部長が委嘱されたことも併せて報告しておく。

TOWN & CAMPUS 宮代産コシヒカリを食べてね!!

手間暇かけて作ったものは是非生産農家の心のこもった味を賞味してもらいたい。協力をお願いする。

▼平成十六年度に開催される第五十九回国民体育大会は埼玉県で開催される。なかでもアーチェリー会場として、宮代町は県からめでたく選定を受け、開催地となることの内定した。数年先のことはあるが、学生諸君へボランティア活動のお願いもあると思う。成功裡に終わられるよう協力しようではないか。このための開催準備委員会の委員として、本学から二名、小林学生部長と鈴木総務部長が委嘱されたことも併せて報告しておく。

近事片々

早いもので、母校を後にしてから十六年という歳月が過ぎた。そういえば、まだ、目立つほどではないの

置かれていた場所が、自分にとって最も好ましいそれではないとしても、与えられたものに興味を抱き、進んで学んでいくこととする姿勢が大切ではないだろうか。

現在、柄にもなく、旅と鉄道テーマとした執筆活動を生業とさせて頂いて

バブル経済の崩壊や、阪神大震災も目の当たりにしてきた。事業に失敗したこともある。執筆活動においても、風俗誌の記事を書いたことすらある。しかし、その場その時で多くのことを学んだのも事実だ。そして、無数の貴重な人脈を作

び、多くの人々と知り合い、それを自分の財産としていけるのが、次のステップへ進む鍵のような気がしてならない。

少々書きが長くなり、効かない葉の説明文のようになってしまったが、要するに、このことが、私が社会に出て学んだ、ただ一つの真実である。

そして、その下地を作った頂いたのが、他でもない工業地理学研究室だ。

ここに出入りするまでの自分は、積極的に学ぼうとか、吸収してやろうとか、与えられた環境の中で自分から物事に興味を持って取り組もうなどとは、考えもしない人間だったからだ。

自分から興味を持って学ぼうとしなければ、誰も何も教えてくれないという室風が、そうではない人間を、そのように変えてくれたと、今でも信じてやまない。

心からの感謝を申し上げ、この戯言文は終りとしたい。

★本書「列島横断へんあん歌」／『鉄道地図を巻く』は、はるかなる旅の思い出を綴った。 (E)

OB便り



旅と鉄道に関する執筆活動が生業 所澤 秀樹 システム工学科 (第5期生) フリーライター

を学びたかったのが真相だ。ところがである。研究室に出入りするうちに、工業地理の面白さにのめり込んでしまった自分が、そこにあるではないか。

どちらかと言えば、自分の意にそぐわない道ばかりを歩んできた気がする。

サラリーマン時代には、転職も繰り返したほうだ。

で、如何に多くのことを学

ることも出来た。

今の執筆活動において、それらがどれだけの大きな力となってくれているのか、言葉では語り尽くせない。

執筆などという水もの稼業が、いつまで続けられるかはわからない。

が、今、与えられた環境

で、如何に多くのことを学

が、しかし、今、自分の

転職も繰り返したほうだ。

で、如何に多くのことを学

ることも出来た。

今の執筆活動において、それらがどれだけの大きな力となってくれているのか、言葉では語り尽くせない。

執筆などという水もの稼業が、いつまで続けられるかはわからない。

が、今、与えられた環境

で、如何に多くのことを学

ることも出来た。

今の執筆活動において、それらがどれだけの大きな力となってくれているのか、言葉では語り尽くせない。

執筆などという水もの稼業が、いつまで続けられるかはわからない。